

『いじめられて』

(「①何かあったら大人に相談をする。②自分が人からされていやなことは、しない、言わない。③自分の良いところを意識して伸ばす。」の巻)

校長 濱田 晴明



ある男の子の中学校1年生の時のお話です。

中学校へ入学したとき、クラス全体36人中、同じ小学校から来た同級生は、その男の子を含めて3人。男の子は、中1で既に170cmあり、顔にニキビがたくさんあった。体が大きいわりには気が小さく、「友達ができるかな？」と不安に過ごしていた。

初めての給食の時。

ある理由から、男の子に「ビチクソ」という大便を意味するあだ名が付いた。あだ名はすぐに広まった。顔にできたニキビと関係し、ばい菌扱いをされた。教室では、「汚い、そばへ来るな。」と手を払われた。廊下を歩けば、ひそひそ話をされた。2年生や3年生がわざわざ教室まで見に来て、すぐに全校生徒約500人に知れ渡った。さらに、隣の中学校までうわさがいった。男の子は学校へ行くのが嫌になった。「死にたい。」と思ったこともあった。

誰にも言えず苦しんでいた時、中3の姉が、『『ビチクソ』』と言われているよね。だいじょうぶ。」と声をかけた。母親もそれを知り、声をかけた。それまで何も言わなかった男の子は泣き崩れ、これまでのことを打ち明けた。そして、次の日、担任に話した。担任はすぐに学級全体へ指導をした。その後、男の子にやさしく声を掛ける生徒が増えた。やさしくされた男の子に笑顔が少しずつ見られるようになった。しかし、いじめは、まだ少しあった・・・。

実は、この男の子とは、私です。

この実話には続きがあります。

学級には、いじめられている生徒がもう一人いた。男の子は、その生徒がいつも気になった。そして、その子が困っていたとき、なにげなくそっと助けていた。なぜ助けたか？自分と同じようにいじめられてかわいそうと思ったからかもしれないし、自分も友だちからやさしく助けられた経験があったからかもしれない。また、小学校の時、ある女の子から「あなたは、やさしい。」と言われたのを覚えていたからかもしれない。さらに、中学校の先生にも「やさしい。」と言われたからかもしれない。

そのうち、徐々にいじめは減り、最後には、「ビチクソ」とあだ名で呼ぶ生徒や、ばい菌扱いをする生徒がいなくなった。反対に、「あいつはやさしい。」という声が増えていった。

この中学校の時の体験から、今、河崎小学校の子どもたちに以下のことを伝えたいです。

- ① 何かあったら大人に相談をする。(これを「チクる」とは言わない。堂々と大人に言う。)
- ② 自分が人からされて嫌なことは、しない・言わない。(自分が逆にいじめをしたら同罪。)
- ③ 自分の良い所を意識して伸ばす。(周りの人が、自分の存在を認めてくれるようになる。)

河崎小学校の子どもは、今後、中学校、中等教育学校、そして高校など、大きな集団の中に入っていくのは事実です。私の経験した状況と似た経験をすることもあるかもしれません。そのとき、少しでも私のこのことが役に立ってくれればと思い、全校朝会で話しました。今後も上記の3つは、機会あるごとに話していきます。

保護者や地域の皆さんも、子どもの時の経験で学んだことを、子どもたちへ話しませんか。